2022.12.30.
T.Kobayashi

日本橋・京橋を歩く
難破船漂着事件から牢獄跡まで

12 月の中頃、日本橋で地下鉄を降りて「お江戸日本橋亭」へ行くついでに付近を歩いて見た。
日本橋の手前にあったはずの西川ふとん店がなくなっており、江戸橋周辺のビルは何もなく、戦災を被った町のように平地が広がり、野村證券の本館だけが残っていた。
またまた再開発が行なわれて、街が大きく変ろうとしている。まずは日本橋を渡って、室町の路地裏に入った。

＜1＞　リーフデ号の難破

室町一丁目に入って最初の路地を少し歩くと、電柱の町名表示板に「按針通り」という文字を発見。
三浦按針（ウィリアム・アダムス）のことであろうことはとっさに思いついた。京浜急行の金沢八景と横須賀の間に「安針塚」という駅があり、そこがゆかりの地であることは知っていたが、日本橋に関係がある人ということは知らなかった。

この地に三浦按針の屋敷があったことによるもので、江戸時代の古地図を見ると、日本橋と江戸橋の間の北岸に「按針町」と書いた路地があった。
イギリス人の航海士で貿易商でもあったウィリアム・アダムスは、オランダのロッテルダムから極東を目指す船団に航海士として参加。五隻の船団で出航したが、リーフデ号一隻となってしまい 1600 年（慶長 5 年）に豊後の黒島（現在の臼杵市黒島）に漂着し、臼杵城主太田一吉により救出された。
関ヶ原の戦いが始まる約半年前の出来事である。（黒島はここ　https://yahoo.jp/3HTMM0　）
事件として取り扱った長崎の奉行は、あわや処刑に・・・となる状況の中で・豊臣秀吉・徳川家康などの要人に対処策を相談し続けた結果、家康が対面することになった。
重体で身動きできぬ状態の船長に代ってウィリアム・アダムス他二名の乗組員が家康と接見することになった。何度かの接見の中で双方に誠意と信頼感が生まれ、当初帰国を求めはしたものの、家康の意向で、江戸に移ることになった。そして居留地の提供を受け、糧食・俸給も得て造船技術や航海技術あるいは外交などの様々な助言役として働いた。その後ウィリアム・アダムスは 250 石の大名に取り立てられて相模国三浦に領地を与えられた。日本橋室町の按針通りには「三浦按針屋敷跡」という碑文も残されている。（三浦按針屋敷跡　https://yahoo.jp/QSZ0U7　）
また、この船に同乗して家康との接見に加わったオランダ人のヤン・ヨーステンは、ウィリアム・アダムス同様に内堀沿いに居を与えられた。のちに耶楊子（やようす）という和名を得て、徳川幕府のために江戸のために様々な貢献をした。耶楊子が転じて、八代洲（やよす）と表記されることになり、居住地近くの馬場先門と和田倉門の間の馬場先堀に八代洲河岸という地名も生まれた。これが「八重洲（やえす）」という地名の起源と言われている。（八代洲河岸はここ　https://yahoo.jp/WjU8gI　）
徳川家康の没後の幕府はやがて鎖国政策に向かい、彼等は冷遇される時代になった。長崎の平戸に移り住んだ三浦按針は、元和 6 年（1620 年）55 才の生涯を閉じた。歴史は残酷な結果を残すもので、美談は長くは続かなかった。
日本橋・京橋・八重洲あたりは、比較的整然と区画されており、所々に小さな路地も残っていて、思いがけない発見をすることが多い。
引き続き古地図に眺め入っていたら、なにやら落語で聞いたことがあるような地名がいくつも目に入ってきて、しばらくこの界隈に浸ることになった。

＜2＞　五郎兵衛町はここだ
鍛冶橋・呉服橋・江戸橋・京橋 JCT・西銀座を結ぶほぼ矩形のエリアは水路に囲まれた職人・商人の町になっており、その南側には銀座が連なっていた。
矩形のエリアにある町のひとつひとつを読み取ると町の様子が手に取るようにわかる。
呉服町・大工町・畳町・油町・具足町・塗師町・鞘町などなど・・・・。銀座側に入ると肴町・弓町・鍋町もあった。
落語「万両婿」の主人公である小間物屋の相生屋小四郎が住む「京橋五郎兵衛町」は、この矩形のエリアの南端にある。
東京駅八重洲南口を出て、外堀通りを有楽町方面へ進むと鍛冶橋交差点がある。交差点を渡った左側の日東紡ビルと福岡銀行東京支店がある一角が五郎兵衛町だった。　https://yahoo.jp/PUFY3n
外堀通りは、その名が示すように江戸時代には江戸城の外堀だった。現在の鍛冶橋交差点の場所には鍛冶橋御門があり、呉服橋交差点には呉服橋御門があった。
相生屋小四郎は上方へ背負い小間物売りの旅に出るが、思いもよらぬ大事件に巻き込まれてしまう。

＜3＞　福徳神社と百川楼
日本橋室町二丁目、COREDO 室町 2 という高層ビルの北側のビルの谷間に福徳神社がある。
開発が続き高層ビルの街になってしまった室町の裏通りにあり、建て直しや化粧直しが行なわれたので、いささかけばけばしい色合いになってしまったが・・・。
貞観年間（859 年～877 年）には存在していたという古い神社である。その頃はこの地は福徳村と言い、村の鎮守のお稲荷様だった。八幡太郎義家・太田道灌などに崇敬され、徳川家康も度々参詣していた。神社周辺は田圃だったが、江戸時代に入り商家が建ち並ぶ繁華街になり、浮世小路と呼ばれるようになった。江戸橋の北岸に食い込む伊勢町堀の堀留の場所で、料亭「百川楼」があった。
江戸屈指の料亭で、安政元年のペリー来航の折には板前が横浜まで出向いて腕を振るったという。百川楼があった場所には、現在は福徳神社の社務所が建っている。（　https://yahoo.jp/_5g7gd　）
ここを舞台にした落語が「百川（ももかわ）」。
口入れ屋の仲立ちで、百川という料亭で働くことになった田舎出の百兵衛さんがしでかす不始末を描いた噺で、この辺りの地名がいくつか出てくる。
客人の求めに応じて、「長谷川町の三光新道」の常磐津の師匠を呼びに行くことになるのだが・・・・。
長谷川町は、現在の地図で見ると地下鉄日比谷線の人形町駅の東側で日本橋堀留町 2 丁目になる。
（長谷川町はこのあたり　https://yahoo.jp/XKvsuv　）
三光稲荷神社があり、このあたりに常磐津の師匠「亀文字先生」が住んでいたのだろう。常磐津の家元は、代々始祖の名である常磐津文字太夫を名乗ることになっている。落語の中に登場する師匠の名前が「亀文字」であるのも面白いが、百兵衛さんはこれを・・・・・。

＜4＞　日本橋本町
室町の東側に本町があり、南北に広がっている。最南が一丁目で北に向かって四丁目まである。
江戸時代以前には豊島郡洲崎村と言われていて、河口の「洲」だったが、慶長年間（1596 年～1611 年）に埋め立て整備が行なわれてきれいな区画の町になり「本町」と名付けられた。以来商業の中心地として賑わいを続けた。
本町周辺の昭和通りに沿って製薬会社が数多く軒を連ねていたのはその名残だった。近年製薬会社の統廃合が進んで社名が変ってしまったり、建て直された建物もありで、景観はかなり変ってしまった。
自分の葬式代を節約したいがために棺桶を担ぐ人を雇うのをやめて、「自分で棺桶から抜け出して担ぐ」と言い出したり、奇行の多い赤螺屋吝兵衛（あかにしやけちべえ）が住んでいたのは本町二丁目だと、「落語地名辞典」（北村一夫著）に書いてあった。（本町二丁目　https://yahoo.jp/i3m09c　）
本町二丁目には呉服屋の帯屋久七が、本町四丁目には呉服屋の和泉屋与兵衛が住んでいた。二軒の呉

服屋の間に起きるトラブルを描いた「帯久」はこの町が舞台の落語である。
本町二丁目は前述の福徳神社の東側に位置し、「本町」という街はいくつもの落語に登場するが、この街が繁盛していたことを意味するのだろう。
江戸古地図を見ると、北端の本町四丁目に「囚獄」と書いたやや大きめの区画がある。鈴ヶ森や小塚原に刑場が出来る前にはここが「仕置場」だった。俗に言う「小伝馬町牢獄」である。小伝馬町交差点の北西に位置し、現在は十思公園（じっしこうえん）と保育園・老人ホームになっている。その昔は日本橋石町（こくちょう）にあった処刑の合図に鳴らした「石の鐘」が「時の鐘」として公園に残されている。また吉田松陰の終焉の地としても知られている。
「十思公園」という名は、隣接していたが廃校になった十思小学校からとった名らしい。明治 10 年開校のこの学校は、関東大震災で被災し、昭和 8 年（1928 年）に再建されたが平成 2 年に廃校になり十思スクエアという公共施設として使われている。(小伝馬町牢獄跡　https://yahoo.jp/4OqBK6　)
明治初頭には「行政区」は「大区」「小区」で定められており、この学校は「第一大区第十四小区」だった。さらに、北宋の史書に示されている「十思の疏（じっしのそ)」からの引用とを合わせて十思小学校と名が付いたということだった。

以上